

若年性認知症



若い人も認知症になることがあります



65歳未満で発症する認知症を『若年性認知症』と言い、若い世代でも注意が必要です。

そもそも認知症とは

脳の機能が低下したり、脳の神経細胞が死んでしまうことでさまざまな症状が起こり、生活に支障がある状態を言います。

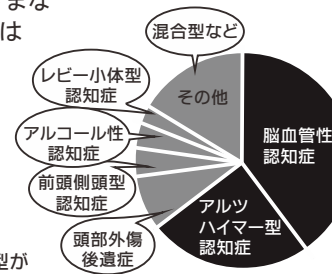
ものごとを正しく理解して適切に実行するための機能を「認知機能」と言い、この認知機能の障害が「認知症」です。

認知症のさまざまな原因

認知症の発症にはさまざまな病気などが関わり、原因は人それぞれ違います。

若年性認知症の場合は原因が多様で、中でも脳血管性認知症が最も多くなっています。

高齢期ではアルツハイマー型が多くなります。



厚生労働省 2009年

●脳血管性認知症
脳の血管が細くなる、血栓で詰まる、破れて出血するなど、血管の異常によって脳に酸素や栄養が行き届かず、神経細胞が破壊され、機能が失われます。

●アルツハイマー型認知症
脳に特殊なタンパク質が溜まることにより神経細胞が破壊され、機能が失われると考えられています。脳が萎縮し、徐々に進行します。

認知症の主な症状

基本的な症状である「中核症状」と、二次的な症状である「行動・心理症状」があります。高齢期の認知症と若年性で症状の違いはありません。



宣言

明るい笑顔

すぐ返事

伝える元気

かちどき薬品
げんき君 ホームページ
健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ



高齢期の認知症との違い

症状は高齢期とほぼ同じですが、若い世代では違った課題がいくつかあります。



仕事や家事で忙しいため
気付かないことが多い

発症年齢が若いので、多くの方が現役で仕事や家事をしており、忙しさで症状に気付くのが遅れる。仕事でのミスが重なったり、家事がおっくうになっても、それが認知症のせいとは思えない。

他の病気と間違えやすく、
診断が遅れることが多い

疲れによる体調不良、更年期障害、うつ状態など、他の病気だと思って医療機関を受診する。誤った診断のまま月日が過ぎ、認知症の症状が目立つようになってから、ようやく診断されることがある。

体調不良やうつ状態と
間違えやすい症状

- やる気が出ない
- 自信がない
- 趣味への関心が減った
- 夜眠れない
- 頭痛、耳鳴り、めまい
- イライラする
- 考えがまとまらない

家庭内での課題もあります。

経済的問題

働き盛りで一家の生計を支える立場の人が多く、休職や退職をする場合、経済的に困窮する可能性が高い。

介護者の問題

配偶者がほとんど一人で介護を担うことが多い。または高齢の親が介護をする側になる場合もある。

子どもへの影響

子どもの養育や進路を決めるなど、親が最も必要とされる時期に発症すると、さまざまな面で支障が生じる。

変化に気付くポイント

日常生活の中での行動が「いつもと違って」と変化に気付くことから、発見につながります。

脳の障害を受けた部位によって出現する症状は異なります。

いつもと違う?

生活で

- ・ 作り慣れている料理が作れない
- ・ 火をつけっぱなしにして何度も鍋を焦がす
- ・ 同じものをいくつも買ってくる
- ・ 趣味が突然できなくなった
- ・ 身だしなみに無頓着になった
- ・ 子どもの学校の行事を忘れる
- ・ よく出かける場所で迷子になる
- ・ 車の運転が下手になった
- ・ 1日に同じことを何度も電話してくるなど



認知症による『もの忘れ』はどう違う？

単なる『もの忘れ』

- ◇もの忘れを自覚している
- ◇体験したことの一部を忘れる
- ◇ヒントがあれば思い出す
- ◇日常生活に支障はない
- ◇判断力は低下しない

認知症による『もの忘れ』

- ◆もの忘れの自覚がない
- ◆体験したこと自体を忘れる
- ◆ヒントがあっても思い出せない
- ◆日常生活に支障がある
- ◆判断力が低下する

いつもと違う？

職場などで

- ・大事な予定や約束を忘れてしまう
- ・最近ミスが多くなった
- ・仕事のスピードが落ちた
- ・やる気が出ない
- ・アイデアが何も浮かばない
- ・上司に対してなれなれしくなる など



ストレスや心因性の病気と間違われることがあります

いつもと違う？

行動や性格

- ・以前よりも怒りやすい性格になった
- ・子どもっぽくなった
- ・汚い言葉で独り言を言っている
- ・涙もろくなった
- ・1人になるのが不安
- ・自分の間違いを人のせいにする
- ・周りへの気づかいが無く、頑固になった
- ・話をしている時、突然立ち去ってしまう
- ・配偶者が出かけると強い不信感を抱く など



社会のルールが守れなくなり、万引きや痴漢などの反社会的行動を繰り返すこともあります

もしかして・・・?と思ったら

早期受診・早期診断が重要です

早期のメリット

脳血管性認知症の場合は症状を和らげる薬があり、リハビリで脳を活性化させて症状の進行を緩やかにする方法もあります。

変化に気付いたら
まずは早めに
診察を受けることを
おすすめします。

早期のメリット

アルツハイマー型の場合は進行を遅らせる薬があり、本人の日常生活動作(ADL)や生活の質(QOL)の維持に役立ちます。

早期のメリット

早期の段階で、理解力や判断力が失われていなければ、自分の病気を受け入れ、人生を考える時間的な余裕も得られます。

受診科は

- 神経内科 ●心療内科 ●神経科 ●もの忘れ外来
- または
かかりつけの医師の診察を受けて紹介状をもらい、
- 認知症専門医療機関へ
- ・認知症疾患医療センター
- ・認知症専門医のいる医療機関
- ・認知症サポート医のいる医療機関



認知症専門医療機関の調べ方

- ◎かかりつけの医師に相談する
- ◎お住まいの地域の地域包括支援センターに問い合わせる
- ◎Webで検索する

(お住まいの都道府県名)認知症疾患医療センター
 日本認知症学会・認知症専門医のいる施設
 認知症サポート医ネットワーク

受診する時は

- 気づいた症状 ●症状が始まった時期 などの正確なメモを持参すると診察がスムーズです。

診断は、症状での推測だけではなくMRIやCTで脳の精密検査も行います。

周囲の人の理解と協力が求められます

本人が自ら気付くのが難しい場合があります。家族や会社の同僚、友人などが気付いたら受診をすすめましょう。



受診の際は家族と一緒に付き添いましょう。

若年性認知症の方への対応

○告知する時は家族がサポートを

まだ仕事ができるのに認知症と告知されたら、精神的に大きな打撃を受けることでしょう。家族や身近な人からの「一緒に乗り越えよう」というサポートが必要な時です。

また、症状が進んで、できないことが増えていくのを自覚するのはとても辛いこと。辛い気持ちを受けとめる言動を心掛け、その人らしい生活が続けられるように、家族で話し合う時間を持ちましょう。

認知症であることを自分自身で認識している場合もあります

ただ、わかっている本人にはどうすることもできません

慢性の病気と同じように認知症と上手に付き合うことが大切です

○できないことを無理強いしない

今までの様子と違ってしまい、周囲の人も戸惑うことが増えるかもしれませんが、できることを一つひとつ、着実にこなすようにしましょう。脳血管性認知症の場合は、できない時とできる時の波があります。その人の状態に合わせてサポートしましょう。

重要なのは自分で何かをしたい!という思いです

どのような形で実現のお手伝いができるのか考えてみましょう

○本人の話を否定しない

ものを「盗られた」見えないものが「見える」などと言うことがあっても、本人にとっては嘘ではないので、否定しないようにしましょう。

話を否定しても解決には至りません

他のことに気をそらす工夫をしましょう

認知症と診断されたら

生活のサポートが受けられます



仕事、家事、育児など社会的役割を担う方が発症すると、生活面での影響も大きいため、さまざまな公的支援があります。

また、徐々に身体機能が低下し、介護が必要になった場合には、40歳以上なら介護保険のサービスが利用できます。

若年性認知症の介護は長期にわたることが予想されます。できれば意思確認が可能な時に話し合い、過ごす場所や治療の方法などは本人の意思を尊重することが大切です。

受けられる支援(例)

状態によって、受けられる内容は異なります。

●**経済的支援** 医療費助成、障害者手帳での減免や割引、障害年金、傷病手当金、住宅ローンの免除など

●**就労支援** 現勤務先での仕事内容や勤務時間の見直し、配置換えの相談をするほか、就職のための訓練と仕事の場を提供する「就労継続支援事業所」を利用することもできます。

●**介護保険による介護サービス** 介護休業制度などで、介護の負担軽減を検討しましょう。

●**心理的支援** 認知症の電話相談
「公益社団法人 認知症の人と家族の会」
電話番号 0120-294-456 (携帯は075-811-8418 有料)
受付時間 午前10時～午後3時 (月～金 ※祝日除く)



経験者に相談し、共感を得たり情報を交換することは、大きな支えとなります。

抱え込まず 早めに 相談を

健康・生活・福祉の専門スタッフに相談ができます。わからないことは、お住まいの市区町村の障害・福祉に関する窓口(障害福祉課など)や地域包括支援センターに問い合わせをしましょう。